

東北海区沿岸水温予報(2008年)

海域	経過 (4~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	定線観測結果(太平洋) 6月 津軽暖流域の各層水温は、0m層で低く、50、100m層では平年並、津軽暖流の東方への張り出しは東経142度40分付近と平年並であった。 定地水温(平年差) 4月:やや低い 5月:やや低い~平年並 6月:低い~平年並	定地水温(平年差) 7月上旬: やや低い~平年並 7月中旬:平年並 7月下旬:平年並	津軽暖流域の水温は平年並で推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並かやや弱勢で推移する。	6月定線観測結果 各層水温は太平洋、日本海と共に低い~平年並、津軽暖流の張り出し、対馬暖流の勢力は平年並である。 定地水温(平年差) 7月中旬より平年並で推移している。	5月下旬からキタミズクラゲ・ミズクラゲが、本県沿岸(六ヶ所村、八戸市、階上町)の定置網に入網した。現在は終息している。 4~6月は親潮の張り出しにより太平洋沿岸の水温は平年並~低いで推移している。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水研発表)	4月 表面:県中・南部の沿岸0~10海里でやや低め、県中部沖合20海里から県南部沖合の40海里でやや高め~極めて高めのほかは平年並となっている。 100m:県南部沿岸0海里でやや低め、県中部沖合30~50海里でやや高め~高めのほかは、平年並となっている。 5月 表面:県全域沿岸0~10海里で平年並のほかは、やや高め~極めて高めとなっている。 100m:県北部沖合10海里から県南部沖合30海里で平年並のほかは、やや高め~高めとなっている。 6月 表面:県北部および県南部沿岸0~10海里で平年並のほかは、やや高め~高めとなっている。 100m:県北部沖合5~20海里および県中部から県南部沿岸0~10海里で平年並のほかは、やや高め~高めとなっている。	表面:県北部沖合0~50海里および県南部沿岸0~5海里で平年並のほかは、高め~やや高めとなっている。 100m:県北部から県南部の沿岸0~10海里で平年並、県北部沖合30海里でやや低めのほかは、やや高め~極めて高めとなっている。	期間前半は、県北部で平年並~やや高め、県中・南部でやや高め~高めで推移する。期間後半は全域で平年並~やや高めに推移する。	6月から7月の観測で県中部から県南部の表面および100m深とも上昇傾向が窺われ、表面については、北上暖水が強勢に推移したことから、期間前半は県中部から県南部でやや高め~高めに推移すると考えられる。県北部は、6月以降すでに親潮系冷水が確認されていないものの、その影響は残ると考えられ、平年並~やや高めに推移するものと考えられる。	6月から7月にかけて県南部の定置網を中心にクロマグロおよびサバの水揚げが好調であった。 6月までキタミズクラゲの定置網への入網が確認されていたが、7月に入り暫時減少傾向にある。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水研発表)	4月には、表面水温は、5~10台であった。沖合域では平年より概ね1~2 高めであったが、沖寄りの海域並びに巨理沖合(38°N)143°E付近では平年より低めであった。100m 深水温については3~7 台であった。雄勝沖合(38°30'N)では、平年と同程度の水温であったが、巨理沖合では平年より低めであった。 5月には、表面水温は8~15 台であった。沖合域では平年より1~3 高めであったが、沖寄りの海域では平年並み又は1~2 低めであった。100m 深水温については4~10 台であった。沖合域では平年より1~2 高めであったが、142°E付近の海域を中心に平年より1~2 低めであった。 6月には、表面水温は12~19 台であった。仙台湾周辺海域では平年より1~2 低めであったが、沖合の海域を中心に平年並み又は1~3 高めであった。100m 深水温については4~11 台であった。雄勝沖合142°E以東の海域では平年より概ね1~2 高めであったが、これ以外の海域では平年より1~5 低めであった。	7月上旬には、表面水温は17~20 台であった。仙台湾周辺海域では平年より1 程度低めであったが、これ以外の海域では平年並み又は1~2 高めであった。100m 深水温については5~11 台であった。巨理沖合142°30'E付近の海域で平年より1~2 低めであったが、これ以外の海域では概ね平年並みであった。 7月中旬には表面水温は20~22 台であり、月上旬に比較して、概ね1~3 昇温した。100m 深水温については、6~10 台であり、上旬同様巨理沖合にやや低い水温域の分布がみられていた。	142°E付近の沿岸寄りの海域では、期間を通じて平年並みで推移する。 このほかの沖寄りの海域では、9~10月に概ね平年より高めで推移するが、11月には平年並み又は低めで推移する。	「宮城県沿岸海域の海況予測モデル」を用いて、100m深水温による予測を実施した。(2008年7月について、類似年は1976年、1978年であった)	4月以降続いていた沖寄りの海域の水温が低めで、沖寄りの海域の水温が高めの傾向は、7月上旬には収束して、ほぼ平年並みの状況になった。

<p>常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)</p>	<p>3月下旬以降北からの親潮系冷水の南下が顕著になり、4月上旬には本県南部海域沿岸に達し、50海里以内の100m深における水温の平年偏差平均は平年より低めとなった。4月中旬以降親潮系冷水は本県沖50海里以内に広く波及し、5月の50海里内における水温は平年よりやや低めであった。6月に入り距岸50海里より沖合に黒潮系暖水が波及したが、より沿岸では親潮由来とみられる比較的低温・低塩分な水塊の分布が継続し、水温は全体でみると平年並であった。</p>	<p>本県沖では50海里より沖合から黒潮系暖水が波及しているが、その影響は50海里以内では弱く、水温は平年並であった。一方で、鹿島灘の海面下は親潮系冷水の影響が残り冷たい海況であった。黒潮の北縁位置は犬吠崎沖に位置している(7月初旬の海洋観測結果)。</p>	<p>期間の前半は沿岸で親潮由来とみられる低温水の分布が継続し、沖合では特に南部海域において黒潮系暖水の波及がみられるものの、その影響は小さく、水温は平年並だが低め基調で推移する。後半には黒潮系暖水の波及が顕著になり、水温の上昇がみられる可能性がある。</p>	<p>統計的予測手法では、期間を通して全域に親潮系冷水の波及がみられるがその勢力は弱いと予測された。また、類似年として4月から4か月連続で1981年が該当、ほか6月と7月に83年、92年と夏場に冷水の分布が顕著であった年が該当している。FRA-JCOPEの予測結果では8月以降黒潮統流が本県沖に近づく予測がされている。</p>	<p>例年5月末で漁期を終えるコウナゴが県南部において7月に入っても水揚げされた。</p>
<p>常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)</p>	<p>4月:1月~3月まで黒潮系暖水の影響で非常に暖かい海況であったが、4月に入ると北部沿岸域から急激に親潮系冷水が差込み、冷たい海況へと変化した。黒潮は中旬以降B型流路で推移した。 表面水温:11 ~18 北部海域「極めて低い」~「やや高い」 南部海域「やや低い」~「極めて高い」 100m深水温:5 ~13 北部海域「極めて低い」~「平年並み」 南部海域「低い」~「平年並み」 5月:親潮系冷水が海域全体に流入し、水温は広い範囲で前月より降温した。そのため非常に冷たい海況で推移した。黒潮は下旬以降C型流路で推移した。 表面水温:11 ~17 北部海域「低い」~「やや高い」 南部海域「極めて低い」~「平年並み」 100m深水温:3 ~9 北部海域「極めて低い」~「やや低い」 南部海域「極めて低い」~「低い」 6月:前月同様に親潮系冷水が海域全体に流入し、非常に冷たい海況で推移した。一方で、犬吠崎沖合では黒潮流路が北上したため低温傾向は解消した。黒潮はC型流路で推移した。 表面水温:12 ~22 北部海域「低い」~「平年並み」 南部海域「やや低い」~「やや高い」 100m深水温:3 ~18 北部海域「極めて低い」~「やや低い」 南部海域「極めて低い」~「やや高い」</p>	<p>7月上旬:親潮系冷水の波及が弱まり、海面付近や常磐南部海域では低温傾向は概ね解消した。一方で、鹿島灘の海面下は親潮系冷水の影響が残り冷たい海況であった。黒潮の北縁位置は犬吠崎沖に位置している(7月初旬の海洋観測結果)。 7月31日現在:NOAA人工衛星水温画像から判断すれば北方沿岸部から22 ~23 台の低温水の流入があるものの、沖合域から暖水が流入している。また、黒潮は下旬にD型流路へと変化した。 (7月初旬の海洋観測結果) 表面水温:18 ~24 北部海域「平年並み」~「高い」 南部海域「低い」~「やや高い」 100m深水温:7 ~18 北部海域「低い」~「平年並み」 南部海域「低い」~「やや高い」</p>	<p>概ね「平年並み」で推移する。犬吠崎沖には黒潮系暖水が波及して、高め基調になる可能性がある。</p>	<p>統計的解析の結果、沿岸域の水温は期間を通して「平年並み」で推移すると予測された。7月下旬現在、親潮の面積が縮小傾向であること。親潮第1分枝の位置が平年より北に位置すること。またその位置は7月~12月にかけて後退する傾向があることから、親潮第1分枝の南下および親潮系冷水が本県沿岸域へ波及する可能性は小さい。 犬吠崎沖の黒潮は南北および離接岸変動し、その際に沿岸域に暖水を波及させる可能性がある。また、三陸沖や常磐沖に暖水塊が形成されており、東北沿岸域が低温環境へシフトするような海況ではない。</p>	<p>7月上旬に海霧が頻発し、午後まで霧で覆われることがあった。このため建網(刺網)の操業を中止することがあった。</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	4.0 ~+5.9	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	+2.5 ~+3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	1.5 ~+3.9	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	+1.0 ~+2.4
平年並み(40%)	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	1.4 ~-1.4	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	+0.9 ~-0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	1.5 ~-3.9	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	-1.0 ~-2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	4.0 ~-5.9	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	-2.5 ~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~